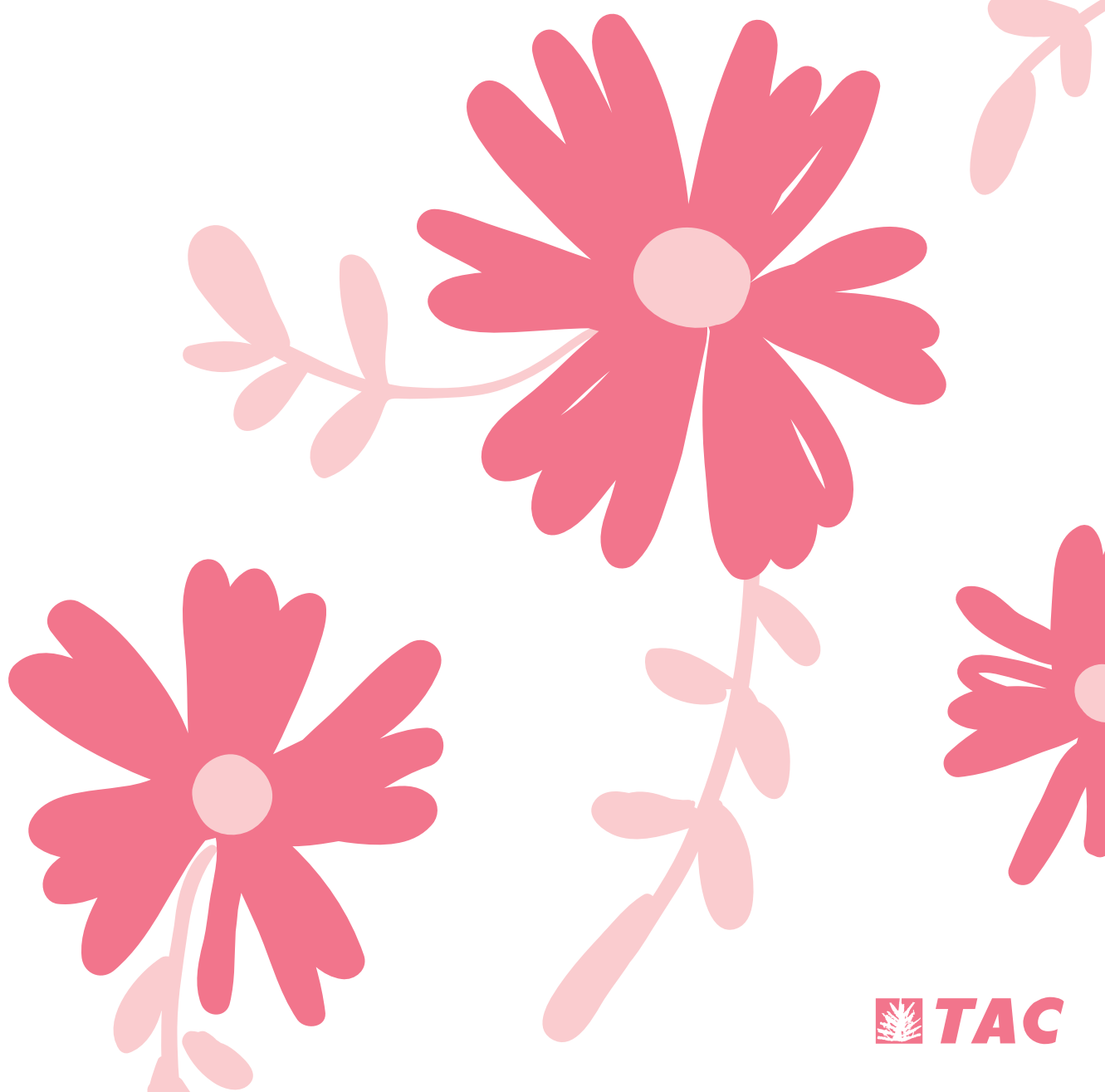


教員採用試験

# 教師力向上ゼミ

第2版





<b>第1回 教師力ゼミ</b> .....	1
1 教師に求められる力とは .....	3
2 教師力を高めるために .....	5
<b>第2・3回 生徒指導力ゼミ</b> .....	11
1 生徒指導とは .....	13
2 生徒指導力を高めるために .....	16
3 児童・生徒理解 .....	21
<b>第4・5回 教科指導力ゼミ</b> .....	25
1 授業力とは .....	27
2 授業力を高めるために .....	35
3 子どもにあった授業とは .....	46
<b>第6・7回 新教育観ゼミ</b> .....	53
1 今の学校は何を目指しているのか .....	55
2 豊かな情操（心）って何？ .....	63
3 将来の教育像とは .....	73
<b>巻末資料</b> .....	81
《マンダラ法》 .....	83
《NM法》 .....	85



# 第1回 教師力ゼミ

教師力とは？





## 1 教師に求められる力とは

### 【ワーク】

作業1 「教師になるために必要な力とは」

---

---

---

作業2 「今、求められる教師の資質・能力とは何だろう」

---

---

---

≪資料≫教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（中央教育審議会答申  
（平成 24 年））

I. 現状と課題

2. これからの教員に求められる資質能力

○これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るためには、社会からの尊敬・信頼を受ける教員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が必要である。

○また、教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である（「学び続ける教員像」の確立）。

○上記を踏まえると、これからの教員に求められる資質能力は以下のように整理される。これらは、それぞれ独立して存在するのではなく、省察する中で相互に関連し合いながら形成されることに留意する必要がある。

(i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

(ii) 専門職としての高度な知識・技能

・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)

・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)

・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

(iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)



## 2 教師力を高めるために

### 【ワーク】

作業3 「今、できることとは」

---

---

---

作業4 「日常生活で意識すべきことを考える」

---

---

---

≪資料≫教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（中央教育審議会答申  
（平成 24 年））

### 3. 取り組むべき課題

- 今後、このような資質能力を有する、新たな学びを支える教員を養成するとともに、「学び続ける教員像」の確立が必要である。
  
- 特に、教科や教職に関する高度な専門的知識や、新たな学びを展開できる実践的指導力を育成するためには、教科や教職についての基礎・基本を踏まえた理論と実践の往還による教員養成の高度化が必要である。
  
- 他方、初任者が実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力など教員としての基礎的な力を十分に身に付けていないことなどが指摘されている。こうしたことから、教員養成段階において、教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を育成するなど何らかの対応が求められている。特に、いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題は深刻な状況にあり、陰湿ないじめなど、教員から見えにくい事案についても子どもの兆候を見逃さず、課題を早期に把握し、警察等の関係機関と連携するなどして的確に対応できる指導力を養うとともに、教職員全体でチームとして取り組めるよう、こうした力を十分に培う必要がある。
  
- さらに、教員は、教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で知識・技能が陳腐化しないよう絶えざる刷新が必要であり、「学び続ける教員像」を確立する必要がある。このような教員の姿は、子どもたちの模範ともなる。
  
- 大学での養成と教育委員会による研修は分断されており、教員が大学卒業後も学びを継続する体制が不十分である。このため、教員が教職生活全体にわたって学びを継続する意欲を持ち続けるための仕組みを構築する必要がある。
  
- 加えて、自らの実践を理論に基づき振り返ることは資質能力の向上に有効であるが、現職研修において大学と連携したこのような取組は十分でない。

## 《資料》教員になりたいと思っている人に学んでほしいこと（東京都教育委員会）

Q 教員として必要な教養を身に付けるために、どんなことを経験しておけばよいのでしょうか？

A 社会人としての身だしなみや言葉遣い、立ち居振る舞いなど、基本的な接遇マナーを身に付けておきましょう。

また、日頃から新聞を読んだり、ニュースを見たりする習慣を付け、教育に関することはもちろん、国内外の政治や経済など、最新の社会の動向を把握するようにしましょう。文化や芸術等に親しむ機会をもつことも大切です。

## 《資料》小学校教諭教職課程カリキュラムについて 解説編（東京都教育委員会）

### 東京都教育委員会が求める教師として最小限必要な資質・能力

#### (2) 教師として必要な教養

##### ●解説

社会人としての常識を備えていることは、教師には特に求められており、学部の段階から身に付けてほしい資質・能力としてここに示した。また、小学校の教師は全教科を指導するため、すべての教科の基礎的な知識を身に付けておく必要がある。さらに、変化の激しい社会の中、常に新しい知識や情報を積極的に取り入れ、すでに身に付けた知識や情報を見直しながら、生涯を通じて学び続ける態度を身に付けておくことを願い、この事項を提示した。

##### ●内容

1 小学校教師に求められる常識を身に付けている。〔意欲・態度、知識〕

ア 社会のルールや人との約束や時間を確実に守るなど、社会人としての常識を身に付ける。

イ 相手の意見を丁寧に聞き、自分の意見を分かりやすく伝えながら、意見の違いや立場の違いを理解する。

2 各教科等の指導内容にかかわる基礎的・基本的な知識や、小学校教育に関する課題や動向等に関する知識を身に付けようとしている。〔意欲・態度、知識〕

ア 大学での講義や学習に真摯に取り組み、教育実習を行うことを前提とした一般教養や教職課程の学習内容を理解する。

イ 小学校教師として授業を行うために必要な基礎的な知識と教養を身に付ける。

ウ 小学校教育における新しい研究成果の発表や、最新のデータ分析等の専門知識を身に付ける。

3 教師としての資質・能力を高めるため、常に新しい情報に基づく国内外の政治経済、社会の動向等を知り、文化や芸術等に触れるなど、生涯を通じて学び続けようとしている。〔意欲・態度、知識、実践的指導力〕

ア 生涯学習の必要性を理解し、新しい情報に基づく知識を積極的に吸収し、教師として向上しようとする意欲・態度をもつ。

イ 日常的に文化や芸術に触れたり、ボランティアとして地域社会への貢献をしたりするなど、体験的な学習を通して自らを高めていこうという意欲・態度をもつ。

学生の皆さんは、大学での講義やゼミ、サークル活動（部活動）などの大学生生活だけではなく、小学校や中学校でのボランティア活動、インターンシップといった社会体験など、様々な場面で学ぶ機会があります。これらの経験を通して、教員として身に付けるべき資質・能力を高めましょう。

